



苦難を乗り越え明日を展望するために 「夏季手当要求」申10号交渉を開催!

第1回交渉5月29日 第2回交渉6月4日

組合側から要求の趣旨説明

昨秋の台風19号被害からの復旧に努め、新型コロナウイルス感染症対策では、職場での感染症対策、お客さまの感染防止などを確実に行之、安全・安定輸送をまもり、公共交通、社会的インフラの使命を信頼を損なうことなく支えてきた。民間企業である以上、収入面の落ち込みに目をそむけるわけにはいかないが、「変革2027」実現のために社員一人ひとりが日々懸命に努力している。夏季手当は生活給の一部、必要不可欠なものであり、社員と家族の幸福を実現するためにも、要求額の支給を強く求める。

会社側から現状認識と交渉にあたっての基本的スタンス

新型コロナウイルス感染症に対する不安と緊張の中、当社の社会的使命を果たすべく、お客様の安全と安心してご利用いただいていることへの尽力に感謝する。

今般の状況は中長期に及び大きな影響が続くものとみている。会社の持続的発展こそが社員還元の更なる充実、働きがいの向上、社員家族の幸福の実現に繋がるとの前提にたち、直面する厳しい経営環境や課題について認識を共有することが重要。今後、現状の回復に向けた多様な努力は勿論、社会の大きな変化に対応していくため、「変革2027」を一層スピードアップし、社員一人ひとりが主役となり意欲あるチャレンジと自己啓発に取り組むことが不可欠である。今期夏季手当の議論については、過去と比較にならないほど厳しい状況である。中長期的にも困難な経営環境に直面している。7期連続の賃金改定とキャリア加算、手当見直しなどの影響も考慮しながら総合的に判断していく必要がある。公共性を有した企業であるため、突出感のないよう留意しなければならない。真摯な議論を進めたい。

主たる論点～満額回答を求めて～

会社側からは、損益の推移、景気動向等の情勢資料が提示され、いずれも新型コロナウイルスの影響が色濃く表れ、先行きの不透明感が強調された。当社においても通期業績見通しは示せない状況である。あわせて世間の働き方の変化や生産年齢人口の減少など、世の中の変化はより速くなっており、変革の取り組みもスピードアップが必要である。含めて夏季手当についても慎重な判断が必要との姿勢が示された。

組合側からは、現状の認識は一致しており、私たちは労働組合として、鉄道事業に対する行政支援を求める要請行動を実施していることを伝えるとともに、こうした状況の中でも安全・安定輸送を着実に実行していること、社員一人ひとりの「変革2027」に対する姿勢が減収を最小限に抑えている。そうした社員の取り組みを持続させるためにも、また、人材確保、生活給としての夏季手当の必要性を訴え、要求の満額支給を強く求めた。

変革を加速させ、未来を切り拓くために「要求満額」を!